



開園30周年

にじのはし幼稚園 園だより



令和8年10月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 飯田 美弥

暑かった夏が遠い昔のように、涼しい日々が続いています。今年は9月に入ってから例年にないくらい雨が続けていたことで、秋の長雨という言葉を実感します。過ごしやすくなったことをうれしく思う一方で、どうせ涼しくなるなら晴れてほしいと願い、秋晴れの日を心待ちにする日々です。

秋の長雨は、別名「ススキ梅雨」とも言うそうです。ススキは秋の風物詩としても知られ、中秋の名月にはススキと団子を飾る「お月見」の習慣があります。園でもススキを飾り、講師の先生を招いてお月見お茶会を行います。着物を着た先生からお茶をいただく経験は、日本の伝統文化に触れる大切な機会となっています。



港区立幼稚園では今年度も、各園で国際理解ウィークを設定しています。9月には、にじのはし幼稚園でも、国際理解ウィークのメインデーとして、ワンデートラベルデーを開催しました。この日は、NT(ネイティブティーチャー)が10名派遣され、子どもたちと一緒に海外旅行のイメージでごっこ遊びを楽しみました。昨年に比べて、NT とのやり取りを楽しむ様子が見られ、日頃の NT とのかかわりが生かされていると感じました。



NTとの活動は今年で3年目となりますが、単に英語の活動ということではなく、遊びを通した総合的な指導を行う幼稚園の特色を生かして、国際理解の意識の芽生えを培うというねらいがあります。日本語とは違う言葉があることや、自分とは違う肌や髪の色の人がいることなど、NT との実際のかかわりの中から感じている子どもたちです。

引き続き遊びの中で楽しみながら自然に英語や他国の文化に触れることと併せて、日本の伝統文化に触れることについても、本園の特色として大切に積み重ねていきたいと思っています。

幼稚園経営計画 今年度の主な取り組みからの抜粋

(1)日本の伝統文化や他国の文化に触れ、国際理解につながる経験を充実させます。

- ①学校2020レガシーの「日本人としての自覚と誇り」を重点とし、季節の伝統行事やお茶会など、伝統文化に触れる機会を大切に、日本文化の良さを感じさせ、小中につながる国際理解の意識の芽生えを培います。
- ②国際理解の意識の芽生えを培うため、幼稚園NT(ネイティブティーチャー)と連携し、自国・他国の文化や英語に触れる活動を実施し、異文化への興味をもたせ、異なる文化をもつ人々への受容や共生への態度・能力の基盤を育成します。

ワンデートラベルデーの前日には、5歳児いるか組が大型積木で飛行機を作って準備をしました。昨年のいるか組も同じように飛行機をつくってくれたことを思い出している子もいたようです。「にじのはし幼稚園の伝統」も、遊びの中で伝承されながらつくられていくのかもしれません。